

4



昭和八年八月

原蠶種國家管理ノ概要

農林省蠶絲局

目次

- 一、原蠶種國家管理問題ノ經過
- 二、原蠶種國家管理ヲ必要トスル理由
- 三、原蠶種國家管理ノ蠶絲業ニ及ホス效果
- 四、原蠶種國家管理計畫ノ概要

原蠶種國家管理ノ概要

一、原蠶種國家管理問題ノ經過

我國ニ於ケル蠶絲業ノ異常ナル發達ハ一面ニ於テ蠶品種ノ雜駁ヲ招來シ其ノ弊年ト共ニ加ハルノ狀勢ナリシヲ以テ明治四十二年農商務省ニ開催セラレタル生産調査會ニ於テハ前實統一ニ關スル施設ニ付種々論議ヲ盡シタル結果政府ハ先ツ少クトモ所要原々種ノ十分ノ一ニ該當スル原蠶種ヲ製造シテ道府縣ニ配付シ漸次製造高ヲ増加シ結局強制的ニ全國ノ統一ヲ行フヘキコトヲ決議シタリ

政府ハ右決議ニ基キ明治四十四年原蠶種製造所（大正三年蠶業試驗場ト改稱）ヲ設置シ優良蠶品種ノ選出育成ニ努ムルト共ニ原蠶種ノ製造配付ヲ爲スコト、ナシ爾來逐年國蠶系品種ノ普及ヲ見ルニ至リタルモ原蠶種ノ配付ハ希望ニ依リ之ヲ行ヒ強制スルモノニ非ラサルヲ以テ其ノ間種々ノ商

策行ハレ所期ノ目的ヲ達スルニ遺憾ノ點尠カラズ是ヲ以テ
大正九年及同十年地方蠶絲業主任官協議會ニ於テ原蠶種回
營ノ必要ヲ決議シ又同十一年蠶絲業同業組合中央會第七回
總會ニ於テモ本問題ニ付論議セラル、所アリタルモ其ノ後
國蠶系品種ノ普及ニ伴ヒ蠶品種モ逐次整理セラレ品種數漸
ク減少スルノ趨勢ヲ示シタルヲ以テ自然本問題ニ關スル論
議要望モ一時其ノ聲ヲ潛ムルニ至レリ然ルニ斯クノ如ク蠶
品種ノ改良ニ依ル效果ノ殆ク認識セラル、ニ至リタルト共
ニ一面蠶品種改良ニ關スル一般ノ興味ヲ喚起シ競ウテ新品
種ノ選出育成ヲ試ミムトスル狀勢ヲ示シ且此ノ氣運ニ乘シ
蠶種製造者ハ營業上ノ商業ヨリ盪ニ新品種ノ製造ヲ企テ製
絲業者亦獨自ノ品種ノ蠶種ヲ製造シテ之ニ依リ原料繭ノ統
一ト特約組合ノ操縦トニ資セムトシ此等ノ原因ニ依リ近年
遠ニ蠶品種ヲ増加シ多種雜駁殆ト拾收スヘカラサルノ狀態

ヲ惹起シタリ即チ昭和元年ニハ原蠶種ノ品種數三百九十種
ナリシモノ昭和五年ニハ八百五十五種ニ達シ同六年ニハ稍
整理ノ緒ニ就キタリト雖尚七百四十九種ノ多キヲ算スルノ
狀況ニ在リ又一面最近世界經濟事情ノ變遷ニ依リ我蠶絲業
ハ深刻ナル打撃ヲ蒙リ之カ難局打開ノ策トシテハ蠶絲業ノ
統制ヲ圖リ斯業ノ根本的立直ヲ斷行スルノ外途ナキヲ痛感
セラル、ニ至リ先ツ以テ製絲業ノ統制ヲ圖ル爲メ製絲業法ノ
制定ヲ見タルカ更ニ進ムテ蠶絲業ノ根源ヲ爲ス蠶種製造業
ニ付テモ之ヲ統制シ蠶品種ノ改良統一ヲ圖ルト共ニ必要ニ
應シ生産ノ調節ヲ爲シ得ヘキ制度ノ樹立ヲ必要トセラル、
ニ至レリ即チ昭和六年三月第五十九回帝國議會衆議院ニ於
テ原蠶種回營ニ關スル建議案ヲ採擇シ次テ同年十月農林審
議會ニ於テ政府ノ諮問ニ對シ蠶種管理制度ニ關シ審議スル
所アリ又同年十二月蠶絲業同業組合中央會第二十回總會ニ

於テ同問題ヲ審議シ其ノ要項ヲ議決シタリ其ノ後昭和七年一月地方蠶業試驗場長協議會及同年四月地方蠶絲業主官協議會等ニ於テモ原蠶種國營問題論議セラレ同年六月第十二回帝國議會衆議院ニ於テ本問題ニ關聯スル蠶絲業國家統制ニ關スル建議アリ同年八月第六十三回帝國議會衆議院ニ胎中楠右衛門外ニ氏ヨリ原蠶種國營法案ヲ提出セラレタルモ審議未了ニ終レリ而シテ同議會ニ於テ製絲業法案審議ニ際シ衆議院ニ於テハ原蠶種國家統制其ノ他ニ關スル法律案ヲ次期議會ニ提出スヘキ要望ヲ附帶決議シ又貴族院ニ於テハ原蠶種ノ國家管理案ニ關シ日本中央蠶絲會ニ諮問スヘキ旨ノ希望アリタルニ依リ同年九月政府ハ日本中央蠶絲會ニ對シ左ノ原蠶種管理要項ヲ示シ之ニ對スル意見ヲ求メタリ

原蠶種管理要項

- 一 政府ハ蠶品種ノ統一ヲ圖ル爲原蠶種ノ管理ヲ爲スコト
- 二 原原種ハ國ノ原蠶種製造所ニ於テ製造シ之ヲ道府縣又ハ第四ノ許可ヲ受ケタル蠶種製造者ニ配付スルコト
原原種ノ品種ハ蠶品種委員會ニ諮問シ之ヲ決定スルコト
- 三 原蠶種ハ道府縣ニ於テ製造シ之ヲ蠶種製造者ニ配付スルコト
- 四 蠶種製造者ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ自家用原蠶種ノ製造ヲ爲シ得ルコト
- 五 蠶種ノ移輸入又ハ移輸出ハ行政官廳ノ許可ヲ要スルコト
- 六 農林大臣ハ蠶種製造者ニ對シ蠶種製造業ノ統制上必要ナル命令ヲ發シ得ルコト
- 七 國ハ道府縣ノ原蠶種製造ニ要スル設備ノ費用ニ對シ補

助金ヲ交付スルコト

日本中央蠶絲會ニ於テハ右ニ關シ同年十二月同會第二回總會ニ於テ審議ノ結果左ノ答申ヲ爲セリ

- 一 政府ハ蠶品種ノ統一ヲ圖ル爲原蠶種ノ管理ヲ爲スコト
- 二 原原種ハ國ノ原蠶種製造所ニ於テ製造シ之ヲ道府縣原蠶種製造所又ハ自家用ニ限リ蠶種製造者ノ希望ニヨリ配付スルコト但シ複製ヲ許サス
- 三 原原種ノ品種ハ蠶品種委員會ニ諮問シ之ヲ決定スルコト

民間ヨリ選出スル蠶品種委員會ノ委員ハ養蠶、蠶種及製絲ノ各業者ヨリ均等ニ選出スルコト

四 道府縣原蠶種製造所ハ原蠶種ヲ製造シ之ヲ蠶種製造者ノ希望ニ依リ配付ス

五 蠶種ノ移輸入スハ移輸出ハ行政官廳ノ許可ヲ要スルコト

六 國ハ道府縣ノ原蠶種製造ニ要スル設備及製造ノ費用ニ對シ補助金ヲ交付スルコト

七 民間ニ於ケル蠶品種ニ關スル調査研究助長ノ途ヲ啓クタメ政府ハ左ノ方法ヲ講スルコト

(イ) 民間ノ優良品種ハ蠶品種委員會ノ議ヲ經テ國ノ品種トシテ採用スルコト

(ロ) 前項ノ場合ハ相當價格ヲ以テ買上クルコト

附帶事項

一 政府ハ本事業施行ノタメ養蠶業者ヲシテ違作ナカラシムルト共ニ蠶種不足ニ陥ラシメサルコト

二 政府ハ本事業有終ノ目的ヲ達成スルタメ養蠶實行組合ニ指導員設置ノ方法ヲ講スルコト

次ヲ昭和八年三月胎中楠右衛門、加藤知正兩氏ハ原蠶種國

家管理法案ヲ第六十四回帝國議會衆議院ニ提出シ同院ニ於
テハ之ヲ審議ノ結果可決セラレタルモ貴族院ニ於テ審議未
了トナレリ

二 原蠶種ノ國家管理ヲ必要トスル理由

現時我國ニ於ケル蠶ノ品種ハ其ノ數七百餘種ヲ算シ頗ル雜
駁ヲ極ムルヲ以テ之ニ依リ生産セラル、繭ノ品質モ亦從テ
區々不齊ナルヲ免レヌ而シテ此ノ情勢ヲ誘致シタル原因ヲ
探究スレハ養蠶者ハ蠶質強健ニシテ收繭量ノ多キヲ望ミ製
絲業者ハ絲量豊富ニシテ絲質良好ナルヲ欲シ蠶品種ニ對ス
ル兩者ノ利害自ラ岐カル、ヲ以テ蠶種製造者ハ此等異リタ
ル要望ニ迎合セムカ爲苦心シ獨自種多ノ品種ヲ用ヒテ蠶種
ノ製造ヲ行ヒタル結果ニ外ナラス而カモ此等多數品種ノ中
ニハ蠶性繭質共ニ劣リ養蠶製絲孰レヨリ見ルモ好マシカラ
サルモノ蓋シ鮮少ナラサルナリ

我國蠶絲業ハ晚近ニ至ル迄海外主トシテ米國ニ於ケル生絲
需要ノ増加ニ刺戟セラレテ發達シ之カ爲專ラ産額ヲ増加シ
テ其ノ需要ヲ充足スルニ躬々タルノ實情ニ在リタルカ近年
ニ至リテハ海外檢業ノ進歩ニ依リ優良齊一ナル生絲ヲ愈々
要望セラル、ニ至リタルト共ニ一面人造絹絲工業ノ異常ナ
ル躍進ハ我生絲貿易ヲ少カラス脅威スルニ至リタルヲ以テ
今後ハ益々生絲品位ノ向上ト生産費ノ低下トニ專念セサル
ヘカラサルハ論ヲ俟タサル所ナリ然ルニ生絲品位ノ優劣ハ
原料繭ノ如何ニ依リテ左右セラル、所多キノミナラス生絲
原價ノ約八割ハ原料繭ノ價額ナルヲ以テ原料繭ヲ改良シ其
ノ生産費ヲ低下セシムルコトハ畢竟生絲品位ノ向上ト生産
費ノ低下トニ裨益スル所甚大ナルカ故ニ今後我蠶絲業ノ更
生ヲ策スルニハ原料繭ノ改良統一ヲ基調トセサルヘカラス

而シテ産繭ノ品質向上ハ蠶品種ノ改良ニ依ルヲ捷徑トシ繭質ノ均齊ハ蠶品種ノ統一ニ俟タサルヘカラス現ニ蠶品種ノ改良ニ依リ蠶作ノ安定ト繭質ノ向上トニ顯著ナル進境ヲ示シタルコトハ周知ノ事實ナルヲ以テ今後蠶品種ノ改良ニ一層ノ力ヲ致スト共ニ之カ普及統一ニ關シ適切ナル施設ヲ講スルヲ緊要トス

原蠶種國家管理ハ斯カル問題ヲ解決スヘキ最善ノ方策ニシテ國家カ特ニ強制力ヲ以テ之ヲ管理セムトスルノ所以ハ原々種ノ製造ヲ民間當業者ヲシテ自由ニ之ヲ行ハシムムカ到底現狀ヲ打開シ品種ノ整理統一ヲ期スルコト困難ナルノミナラス斯業ノ統制ヲ必要トスル場合ニ於テ徹底セル國策ノ遂行ヲ期シ難キ憾アリ即チ國家カ原々種ノ製造ヲ專行シ原蠶種ノ製造ハ之ヲ國家管理ノ下ニ於テ道府縣又ハ許可ヲ受ケタル蠶種製造者ニ行ハシメ之ヲ蠶種製造業者ニ配付シ普

通蠶種ノ製造ヲ爲サシムルトセハ現存スル雜多劣等ナル蠶品種ハ悉ク淘汰整理セラレ養蠶者ハ何等ノ疑惑ナク蠶性強健絲質優良ナル蠶兒ノ飼育ヲ行ヒ得ヘク作柄ノ安定ト繭生産費ノ低下トニ依リ養蠶經營ノ向上ニ寄與スル所甚大ナルハ勿論生絲品位ノ向上齊一ト生絲原價ノ引下トニ依リ製絲經營ハ著シク合理化セラルヘク且無謀競爭ノ弊ヲ矯メ蠶種製造業ノ經營改善ニ顯著ナル效果ヲ齎スヘキヲ以テ原蠶種ヲ國家ニ於テ管理スルコトハ斯業更生上喫緊ノ要諦ト謂ハサルヘカラス殊ニ蠶絲業ノ基礎ヲ危クスル虞アル場合ニ於テハ製絲業ノ統制ト相俟テ蠶種製造業ノ統制ヲ圖リテこそ蠶絲業全般ノ統制ヲ完ウシ得ルモノナルヲ以テ之カ爲ニモ國家管理ノ必要ハ敢テ贅言ヲ要セサル所ナリ

三、原蠶種國家管理ノ蠶絲業ニ及ボス效果

(イ) 養蠶者ニ對スル利益

現時蠶品種ハ其ノ數頗ル多ク雜駁ヲ極メ玉石混淆ノ状態ニ在ルノミナラス品種名ト其ノ實質一致セサルモノアルヲ以テ養蠶者ハ蠶種ノ購入ニ際シ其ノ選擇ニ迷ヒ且蠶品種ノ性狀明カナラサル為飼育上ニ齟齬ヲ來タスコト勘カラス然ルニ原蠶種國家管理ノ實施ニ依リ之等ノ弊ヲ艾除シ蠶品種ノ統一向上ハ作柄ヲ安定シ繭質ヲ優良且齊一ナラシムルヲ以テ産繭處理上頗ル有利且自由トナルノミナラス蠶作ノ安定ト收繭ノ増加トニ依リ繭生産費ノ低下ヲ來タシ養蠶經營上享受スル利益少カラス

(ロ) 蠶種製造者ニ對スル利益

現今蠶種製造者ハ自己製造蠶種ノ販賣ニ焦慮スルノ結果特異ノ品種ノ蠶種ヲ製造セムトシ他ヲ顧ル暇ナキノ狀況ニアレ共原蠶種國家管理ノ實現ニ伴ヒ原蠶種ノ製造ニ要シタル勞費ヲ省キ得ルノミナラス品種ノ選擇ト新奇ノ名稱ヲ逐フノ煩ナク專ラ普通蠶種ノ製造ニ專念シ得ルコトトナルヲ以テ蠶種ノ實質向上ニ寄與スル所大ナリトス又蠶種製造ノ經營上ヨリ之ヲ觀レハ各々其ノ獨自ノ品種ニ依リ蠶種ノ製造ヲ為ス為ニ生スル種々ノ弊害ヲ除去シ蠶種ノ需給ヲ圓滑ナラシメ且品種ノ多數ナルカ為勢ヒ免レサル過剩蠶種ヲ着シク減少セシメ蠶種製造業ノ經營ヲ改善安定セシムルヲ得ヘシ

(ハ) 製絲業者ニ對スル利益

歐米機業ノ發達ニ伴ヒ優良生絲ノ要望セラル、コト益々切實ヲ加ヘツ、アルニモ拘ラス蠶品種雜駁ナル為製絲業者ハ原料繭ノ不齊ニ苦ミツ、アルノ現況ナルモ原蠶種國家管理ノ實現ニ伴ヒ蠶品種統一セラレ優良均齊ナル原料ヲ廣ク且自由ニ購入シ得ラル、コト、ナリ原料繭ノ仕入

上頗ル便宜ヲ得ラル、ノミナラス乾繭煮繭ノ程度ヲ均一
適當ナラシメ繰絲能率ヲ増進シ得ルヲ以テ生絲品位ノ向
上ト生絲生産費ノ低減トニ資スルコト頗ル多シ

(二) 蠶絲業統制上ノ利益

原蠶種國家管理ヲ實施シ原々種ノ製造ヲ國家ノ專行トス
ル場合ニ於テハ養蠶者ノ飼育スル蠶ノ品種ハ容易ニ之ヲ
統制シ得ルヲ以テ養蠶經營上ノ改善ヲ指導スル上ニ於テ
其ノ徹底ヲ期シ得ルノミナラス今後蠶繭類ノ新規利用ノ
研究ノ進捗ニ伴ヒ産繭ノ品質ニ何等カノ變革ヲ必要トス
ルニ至リタルトキハ本制度ノ運用ニ依リ立處ニ之カ轉向
ヲ敢行シ得ラルヘク又一朝生産調節ヲ必要トスルカ如キ
場合ニ於テハ本施設ノ發動ニ依リ蠶種製造業ノ統制ヲ圖
リ生産ノ根源タル蠶種ニ付適切ノ措置ヲ講シ得ルノ用意
ト權限トヲ茲ニ保有シ得ルモノトス

右ニ述ヘタルカ如ク蠶品種ノ改良ハ養蠶者ニ採リテハ蠶作
ノ安定ト繭質ノ向上トヲ、蠶種製造者ニ採リテハ經營ノ改
善ト業務ノ堅實トヲ、又製絲業者ニ採リテハ製絲能率ノ増
進ト生絲品位ノ向上トヲ圖リ得ラレ經濟上莫大ナル利益ヲ
享受シ得ヘシ即チ今後新品種ノ育成ト優良品種ノ普及トニ
努ムルトキハ繭百々ノ絲量現在ノ全國平均春蠶十二々夏秋
蠶十一々ヲ夫々十五々及十四々トナシ得ルノミナラス同功
繭亦合ヲ減シ且解舒ヲ良好ナラシメテ繰絲時間ヲ短縮スル
コトニ依リ年額凡一億八千五百萬圓ノ利益ヲ擧ケ得ラル、
見込ナリ

四、原蠶種國家管理計畫ノ概要

原蠶種國家管理實施ノ爲原蠶種管理法ヲ制定シ原々種ハ總
テ國ニ於テ之ヲ製造スルコト、シ道府縣ヲシテ國ノ配付ス

ル原々種ヲ用ヒテ原蠶種ヲ製造シ之ヲ蠶種製造者ニ配付セ
シメムトスルモノニシテ之カ爲蠶業試驗場ニ於ケル原蠶種
製造配付ニ關スル事業ノ擴張、道府縣ニ對スル原蠶種製造
設備費補助等ノ施設ヲ爲サムトス其ノ計畫ノ概要次ノ如シ
一原々種ハ國ニ於テ製造シ之ヲ道府縣又ハ第七號ノ許可ヲ
受ケタル蠶種製造者ニ配付スルコト
二原々種ノ品種ハ蠶品種委員會ニ諮問シテ之ヲ決定スルコ
ト

三國ハ第一號ノ事業ヲ遂行スル爲之ニ必要ナル設備ヲ蠶業
試驗場ニ擴充増設スルコト

四國ニ於テ製造スヘキ原々種ハ掃立數量三十六萬蠶ニ對シ
請求數量ヲ四十六萬八千蠶ト見做シ之ニ二割ノ豫備ヲ見
込ミ五十六萬一千六百蠶トス

五道府縣ハ原蠶種ヲ製造シ之ヲ蠶種製造者ニ配付スルコト

六道府縣ハ第五號ニ依リ原蠶種ノ製造配付ヲ爲スニ足ル設
備ヲ新ニ設クルコトヲ要スルヲ以テ其ノ費用ニ對シ國庫
ハ二分ノ一ノ補助金ヲ交付スルコト

七、蠶種製造者ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ自家用原蠶種ノ製造
ヲ爲シ得ルコト

八、農林大臣ハ蠶種製造者ニ對シ蠶種製造業ノ統制上必要ナ
ル命令ヲ發シ得ルコト

九、蠶種ノ移輸入又ハ移輸出ハ行政官廳ノ許可ヲ要スルコト

参考表

一 蠶種製造者數及蠶種製造額

年次	蠶種製造者數		蠶種製造額	
	原蠶種	普通蠶種	原蠶種	普通蠶種
昭和二年	三,七七九	七,二六〇	一八,四八二,〇六六	八五九,〇八三,六一六
同 三年	三,九八一	七,一七三	一九,一五九,一一八	八九五,六八四,七九〇
同 四年	四,〇二五	六,九六八	一九,九八二,四〇一	八五八,七四九,九〇一
同 五年	五,四九四	六,八三七	二九,八三六,一四三	九一三,八三一,二〇〇
同 六年	五,一三五	六,二二九	二六,四九五,九六四	七九一,六六三,〇〇四
				計
				八七,七五六,六八二
				九一四,八四三,九〇八
				八七,七三三,三〇二
				九四三,六六七,三四三
				八一八,一五八,九六八

二 蠶種製造者製造原蠶種品種數

年 度	純粹種及固定種	交 雜 種	計
大正十年	六〇四	四五三	一〇五七
同 十一年	四七二	二九八	七七〇
同 十二年	四〇四	二〇二	六〇六
同 十三年	二八八	一一四	四〇二
同 十四年	三二五	一〇七	四三二
同 十五年	三〇二	八八	三九〇
昭和二年	三三四	七四	四〇八
同 三年	四〇二	六〇	四六二
同 四年	五八九	三六	六二五
同 五年	八二四	三一	八五五
同 六年	七四二	七	七四九

三 國蠶系地方蠶業試驗場系其他別蠶種製造額割合

年 度	原 蠶 種			普 通 種		
	國蠶系 試驗場系	地方蠶業 試驗場系	其他	國蠶系 試驗場系	地方蠶業 試驗場系	其他
大正十一年	五七.六%	一五.八%	二.七%	三八.六%	七.六%	一六.八%
同 十二年	五八.七%	一六.六%	一.九%	四八.六%	七.九%	一三.七%
同 十三年	六〇.一%	一七.四%	一.二%	五〇.九%	一三.八%	一三.二%
同 十四年	五六.三%	一六.六%	一.五%	四六.九%	一七.五%	一二.二%
同 十五年	五五.六%	一八.四%	〇.七%	四四.八%	一八.七%	一三.〇%
昭和二年	五九.三%	一四.五%	〇.四%	四七.六%	一九.六%	一五.二%
同 三年	五六.八%	一三.六%	〇.二%	四六.四%	一六.六%	一三.八%
同 四年	四七.九%	一六.五%	〇.一%	四二.三%	一四.四%	一九.〇%
同 五年	四六.〇%	一五.六%	〇.一%	三〇.六%	一三.五%	二八.七%
同 六年	六一.七%	九.五%	〇.一%	五一.〇%	七.三%	二四.七%

四 普通蠶種製造用蠶種掃立數量及製造者別原蠶種製造額

年 度	普通蠶種製造用蠶種掃立數量		原 蠶 種		製 造		計 額
	普通蠶種製造用蠶種掃立數量	原蠶種製造者別蠶種掃立數量	原蠶種製造者別蠶種掃立數量	原蠶種製造者別蠶種掃立數量	原蠶種製造者別蠶種掃立數量	原蠶種製造者別蠶種掃立數量	
昭和二年	一三,九九七,五四三	一八,四八二,〇六六	五,三四一,九一三	一,二一六,五	二,三八三,六一四	二,三八三,六一四	二,三八三,六一四
同 三 年	一四,四六一,七五八	一九,一五九,一八	五,四〇一,五二七	一,一四四,二	二,四五七,二〇八	二,四五七,二〇八	二,四五七,二〇八
同 四 年	一四,五三三,七九四	一九,九八二,四〇一	五,三九八,七〇三	一,三五六,〇	二,五三九,四六四	二,五三九,四六四	二,五三九,四六四
同 五 年	一三,一〇六,七一六	二九,八三六,一四三	四,五九四,六〇七	一,四二七,〇	三,四四四,五〇二	三,四四四,五〇二	三,四四四,五〇二
同 六 年	一一,八九八,一二七	二六,五〇〇,五八四	四,二六八,七九七	一,八五九,二	三,〇七八,七九七	三,〇七八,七九七	三,〇七八,七九七

備考

昭和五年度及六年度普通蠶種製造用原蠶種掃立數量ハ原蠶種掃立總蠶數ニ付原蠶種製造額及普通蠶種製造額ヨリ推定算出セリ

五 蠶種製造額及掃立額比較

年 次	前年製造額	同 上 檢 査 額	同 上 換 算 額	掃 立 額	過 剩 額	同 上 換 算 額	同 上 換 算 額
昭和二年	八二,一八四,二六四	八一,三六〇,〇六〇	二九,〇五七,一六五	一八,四二九,四二九	一〇,六二七,七三六	三六,六	五七,七
同 三 年	八七,五五五,六八二	八六,九四九,九六七	三一,〇五三,三二〇	一八,八九九,〇七〇	一,一五四,二五〇	三九,一	六四,三
同 四 年	九一,四八四,九〇八	九〇,三二八,五八六	三二,二四四,九五	一九,一五八,八三五	一三,〇七一,六六〇	四〇,六	六八,三
同 五 年	八七,八七三,三〇二	八六,一八五,三六七	三〇,七八〇,六五六	一八,五二七,〇六一	一三,二五三,五九五	三九,八	六六,一
同 六 年	九四,三六六,三四三	九〇,九一五,八二九	三二,四九九,五五一	一八,〇三〇,九九〇	一四,四三八,九六一	四四,五	八〇,一

備考

蠶種一枚ハ二十八蠶分ナリ

六 農林省蠶業試驗場原蠶種配付品種數及配付數量

年 度	配付品種數		配付數量	
	春 種	夏 種	春 種	夏 種
昭 和 二 年	六	一〇	一三六九〇 枚	一三五四八 枚
同 三 年	八	八	一八四九	八八六九
同 四 年	一 二	一 八	一七六一五	一〇、〇五〇
同 五 年	一 一	九	一八五一六	一〇、七三八
同 六 年	一 二	一〇	一九〇一八	一〇、〇二〇
計			二七、二三八 枚	二七、二三八 枚

七 地方蠶業試驗場原蠶種配付品種數

年 度	品種數		同上割合	
	國 産 系	地 方 産 業 試 驗 場 系	國 産 系	地 方 産 業 試 驗 場 系
昭 和 二 年	二五	三四	四一・〇%	五五・七%
同 三 年	二四	四〇	三六・四%	六〇・六%
同 四 年	二七	七〇	三・〇%	三・三%
同 五 年	二五	七八	一〇・〇%	一〇・〇%
同 六 年	二三	五九	一〇・〇%	一〇・〇%
計			一〇・〇%	一〇・〇%

八 地方蠶業試験場系統別原蠶種配付数量

年度	配付数量			計	同上割合		
	國蚕系	地方蚕業試験場系	國蚕系及地方蚕業試験場系		國蚕系	地方蚕業試験場系	國蚕系及地方蚕業試験場系
昭和二年	二九五、五三一	六九八、八三七	九〇八〇	三六五九、四四八	八〇・%	一九・%	〇・%
同 三年	二七五、五七四	八一四、八八四	一、七五〇	三、五七二、四〇八	七七・%	二二・%	〇・%
同 四年	二六二、三七八	一、〇六二、五八六	一	三、六八五、九六四	七一・%	二八・%	一
同 五年	二七七、七九二	八四四、四三九	一	三、一三二、三六一	七三・%	二七・%	一
同 六年	二四四、六〇七	五五五、七〇五	一	二、八〇一、七二二	八七・%	一二・%	一
							計
							一〇〇・%

九 蠶種製造者原蠶種所要額及地方蠶業試験場原蠶種配付数量

年度	原蠶種所要額	原蠶種配付数量	對原蠶種所要額配付数量割合
昭和二年	一四、八三一、一八七	三、六五九、四四八	二四・%
同 三年	一四、八四三、六五六	三、五七二、四〇八	二四・%
同 四年	一三、三六七、八二八	三、六八五、九六四	二七・%
同 五年	一三、二二九、九一五	三、一三二、三六一	二五・%
同 六年	一一、七五二、五四六	二、八〇一、七二二	一七・%

備考

蠶種製造者、原蠶種所要額ハ原蠶種掃立總蠶數ヨリ原蠶種ノ製造配付ヲ爲ササル大阪府及佐賀縣ノ原蠶種掃立蠶數ヲ控除シタル蠶數ナリ

一、蠶種移輸入數量
一、移入數量

年 度	臺 灣	朝 鮮	沖 繩	東京府 八丈島	東京府 三宅島	計
昭和二年	一八八瓦	二二八三瓦	四三三六瓦	三八四瓦	一瓦	六五七七瓦
同 三 年	一〇九五瓦	三九八三瓦	四九五七瓦	一	一	九〇五〇瓦
同 四 年	六五〇三瓦	一六八六瓦	一〇九一六瓦	六七四瓦	一〇七六瓦	一八七三瓦
同 五 年	三六五三瓦	八〇〇八瓦	一	一	一	三七三五瓦
同 六 年	一九〇九瓦	四〇七二瓦	一	一	一	五九八六瓦

二、輸入數量

年 度	伊 太 利	佛 蘭 西	支 那	計
昭和二年	一九六九三瓦	一瓦	一九六九三瓦	一九六九三瓦
同 三 年	一八四五二瓦	二三五五瓦	二〇瓦	一八四六六瓦
同 四 年	一七八九三瓦	一	二五〇七瓦	一七九一八瓦
同 五 年	一六七七〇瓦	三〇瓦	八二二瓦	一六七九九瓦
同 六 年	二〇八五三瓦	三〇瓦	二三四瓦	二〇八七九瓦

一 原蠶種ノ國家管理ニ依ル蠶絲業上ノ利益見積
 優良蠶品種ノ普及ニ依リ逐年繭質ノ向上ヲ見ツ、アリト雖其ノ普及ノ程度未タ豫期ニ副ハサルモノアリ而シテ現在ノ國蠶系品種中ニハ絲量豊富、解舒良好ニシテ同功繭歩合少キ優良ナル品種アルヲ以テ今原蠶種ノ國家管理ヲ實施スルニ於テハ直ニ該品種ニ統一セラレ年額約九千八百萬圓ノ利益ヲ收メ得ヘク尚今後一層優良ナル品種ヲ選出配付シ得ヘキ筈ナルヲ以テ之ニ依リ統一セララルル場合ニ於テハ現在ニ比シ年額約一億八千五百萬圓ノ增收トナル見込ナリ
 仍チ左表ノ如シ

現在ノ優良品種ニ依ル場合 今後育成ノ優良品種ニ依ル場合	利益見積	
	繭量増加ニ依ルモノ	同功繭ノ減少ニ依ルモノ
	七五、六四五、七九〇 円	八〇、九七、六八七 円
	一四六、五六三、六一五	一〇、八七七、四五三
		二七、六二六、六七六
		一三、八一三、三三八 円
		九七、五五六、八一五 円
		一八五、〇六七、七四四
		計

尚其ノ詳細ヲ示セハ次ノ如シ

一 絲量ノ増加ニ依ル利益

現在 (昭和六年) 現在ノ優良品種ニ依ル場合	對現在増加額	生繭百枚絲量		繭量		繭價		繭上生絲量	
		春	夏	春	夏	春	夏	春	夏
一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九	一・九
一・三・五	一・六	一・三・五	一・二・五	一・三・五	一・二・五	一・三・五	一・二・五	一・三・五	一・二・五
對現在増加額	一・六	一・六	一・六	一・六	一・六	一・六	一・六	一・六	一・六
今後育成ノ優良品種ニ依ル場合	一・五・〇	一・四・〇	一・四・〇	一・四・〇	一・四・〇	一・四・〇	一・四・〇	一・四・〇	一・四・〇
對現在増加額	三・一	三・一	三・一	三・一	三・一	三・一	三・一	三・一	三・一

右表ノ生絲量増加ニ依ル利益ヲ生絲一貫匁五十五圓ハ最近三箇年平均百斤八百八十九圓トシテ算出スレハ左ノ如シ
 現在ノ優良品種ニ依ル場合 七五、六四五、七九〇圓
 今後育成ノ優良品種ニ依ル場合 一四六、五六三、六一五圓

二 同功繭ノ減少ニ依ル利益

現在(昭和六年)	同功繭割合		總收繭		上繭		同功繭數量	
	春	夏秋	春	夏秋	春	夏秋	春	夏秋
現在ノ優良品種ニ依ル場合	三〇〇	七〇〇	五二六二五	四四四〇五	四八二五六	三二八〇四	二九八〇〇	三〇一八
對現在差引額	(一三) (二八)	(一三) (二八)	一	一	(一) (二)	(一) (二)	(一) (二)	(一) (二)
今後育成ノ優良品種ニ依ル場合	三〇〇	五〇〇	五二六二五	四四四〇五	四九三三五	三九〇七九	一五八〇〇	二二二〇
對現在差引額	(一三) (二八)	(一三) (二八)	一	一	(一) (二)	(一) (二)	(一) (二)	(一) (二)
對現在差引額	(一三) (二八)	(一三) (二八)	一	一	(一) (二)	(一) (二)	(一) (二)	(一) (二)

右表ノ同功繭減少ニ依ル利益ヲ春蠶繭ニ在リテハ一貫匁ニ付上繭五圓五十錢、同功繭一圓八十三錢、夏秋蠶繭ニ在リテハ上繭四圓七十錢、同功繭一圓五十七錢トシテ算出スレハ左ノ如シ

現在ノ優良品種ニ依ル場合 八〇九七、六八七圓

今後育成ノ優良品種ニ依ル場合 一〇、八七七、四五三圓

三 繰絲時間ノ短縮ニ依ル利益

現在(昭和六年)	生絲十匁ヲ繰絲スルニ要スル時間		生絲百斤ノ生産費(機械生絲)	
	春	夏秋	春	夏秋
現在ノ優良品種ニ依ル場合	四五分	五五分	一五〇円	二〇〇円
對現在差引額	一〇	一〇	二〇	二〇
今後育成ノ優良品種ニ依ル場合	二五	三五	一一〇	一五六
對現在差引額	一〇	一〇	二〇	二〇
對現在差引額	二〇	二〇	四〇	四四

右表ノ繰絲時間ノ短縮ニ依ル利益ヲ昭和六年ニ於ケル器械生絲總産額六五七、七七八俵ヲ基礎トシテ算出スレハ左ノ如シ

現在ノ優良品種ニ依ル場合 一三、八一三、三三八圓

今後育成ノ優良品種ニ依ル場合 二七、六二六、六七六圓